

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

「神武の里たかはる」まち・ひと・しごと推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

宮崎県西諸県郡高原町

3 地域再生計画の区域

宮崎県西諸県郡高原町の全域

4 地域再生計画の目標

高原町の総人口は、1955年国勢調査時に16,567人でピークを迎えたあと減少に転じ、2015年調査では9,300人にまで減少している。直近の2020年国勢調査（速報値）では8,646人にまで落ち込んでいる。

人口構成を見ると、1960年代以降、生産年齢人口（15～64歳）が一貫して減少し続けている一方、老年人口（65歳以上）の割合が年々上昇している。また年少人口（0～14歳）は、第二次ベビーブーム以降一貫して減少傾向にあり、1990年以降はその減少速度が速まっている。2015年調査では年少人口997人、生産年齢人口4,843人、老年人口3,460人となっている。

自然動態の推移を見ると、2000年代前半は出生数・死亡数ともに横ばい傾向にあったが、2010年以降は自然減の拡大が続いており、令和元年には出生数46人、死亡数147人で101人の自然減となっている。合計特殊出生率は、平成25-29年平均値において1.71となっており、全国や宮崎県平均よりやや高い水準にある。

社会動態の推移は、2004年以降、長期にわたって転出超過傾向が続いてきたが、近年、社会減は縮小傾向にあり、令和元年には転入240人、転出287人で47人の社会減となっている。

国立社会保障・人口問題研究所による、2040年高原町将来人口推計値は年少人口565人、生産年齢人口2,478人、老年人口2,833人、総人口5,875人にまで減少することが見込まれており、中長期的な視野に立った人口減少・少子高齢化対

策が求められている。

高原町の基幹産業は農業であり、その中でも畜産業の算出額は拡大傾向にある。特に農業算出額の大半を占める肉用牛は本町経済を牽引する成長産業となっている。しかしながら、農業従事者の平均年齢は2015年調査時点で65歳を超えており、農業の高齢化と担い手確保は、喫緊の課題となっている。

今後、人口の減少や高齢化が進むことになれば、十分な労働力を確保できなくなり、前述の農業分野をはじめとする経済活動に重大な支障が出ることも予想される。また、地域コミュニティが弱体化し、地域における諸活動（自治会活動や部活・スポーツ活動など）が停滞・消滅してしまう可能性も出てくる。

これらの課題の克服に向けて、高原町の地域特性を最大限に生かしつつ、SDGsの趣旨を踏まえながら、次の3つの視点に立った持続可能なまちづくりに取り組んでいく。

第一に、人口減少を克服し、本町経済の創生を成し遂げるために、国・県・近隣自治体をはじめ、各種団体、企業、町民とともに、危機感と問題意識を共有しながら、一体的・持続的に取り組んでいく。

第二に、霧島山の麓に位置する本町の地域特性を活かして、幾世代に渡って人の営みにより継承されてきた美しい農村景観や山林、河川、湧水など、豊かな自然を活かした産業をしっかりと維持・発展させていく。

第三に、日本の初代天皇・神武天皇生誕の地「神武の里」として語り継がれた神話や神楽をはじめとする地域に根差した数々の伝統的な文化、これら「地域の宝」を掘り起し、磨き上げ、その価値を高めて最大限に活用しながら、町民一体となって守り伝えていく。

これらの視点を踏まえて計画に取り組むにあたり、次の事項を本計画期間における基本目標として掲げる。

- 基本目標Ⅰ 縁を結び、人を育てる あったか「たかはる和み暮らし」
- 基本目標Ⅱ 資源を活かし、仕事を生み出す 元気な「たかはる産業興し」
- 基本目標Ⅲ 神話が息づく、美しいまちへ 住民協働「神武の里づくり」
- 基本目標Ⅳ 人が集い、まちが輝く はばたけ「たかはる魅力発信」

【数値目標】

5-2の① に掲げる事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2024年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	合計特殊出生率	1.71	1.84	基本目標Ⅰ
	地域の子育て環境や支援への満足度	19.5%	26%	
イ	新規事業所数(累計)	17件	28件	基本目標Ⅱ
	新規事業所雇用者数	93人	95人	
ウ	住みやすい町だと感じる町民の割合	44.2%	50%	基本目標Ⅲ
	SDGsの町民認知度	3.2%	30%	基本目標Ⅲ
エ	移住定住世帯数(累計)	17世帯	60世帯	基本目標Ⅳ
	観光入込客数(単年)	80万人	85万人	

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

- まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例(内閣府)：【A2007】

① 事業の名称

「神武の里たかはる」まち・ひと・しごと推進事業

ア あたたかな風土のなかで縁を結び、安心して子どもを産み育てられる環境づくり事業

イ 豊富な資源を活用しながら、産業の競争力を強化し、新たな雇用を生み出すまちづくり事業

ウ 先人が引き継いできた地域の宝を磨き上げ、住民協働で取り組む持続可能なまちづくり事業

エ みんなでたかはるの魅力を発信し、新たな人の流れをつくる、輝きあふ

れるまちづくり事業

② 事業の内容

ア あたたかな風土のなかで縁を結び、安心して子どもを産み育てられる環境づくり事業

本町では人口減少に伴う過疎化が急速に進行している。そのため、結婚の希望を叶える支援を行うことや安心して妊娠・出産・子育てできる環境を整備することが求められている。

結婚・妊娠・出産・子育てまでの切れ目のない支援体制の整備に取り組みながら、本町の恵まれたあたたかな風土のなかで、若者が縁を結び、結婚して家庭を持ち、子どもが生まれ、その子どもを安心して育てていける環境づくりを目指す。

【具体的な取組】

- ・男女の出会いの場の創出
- ・妊娠から出産までの一貫したサポート体制の整備
- ・子育てをしている家族のサポート体制の整備 等

イ 豊富な資源を活用しながら、産業の競争力を強化し、新たな雇用を生み出すまちづくり事業

雄大な霧島山の麓に位置する本町の産業は、霧島山から湧き出る清らかな水や豊かな緑の恩恵に支えられている。これら自然の恵みを最大限に活用して産業の高付加価値化に取り組みながら、競争力を強化し、その魅力の発信に努め、新たな雇用を生み出すまちづくりを目指す。

また、産業全体の活性化策に取り組みながら、既存の枠組みにとらわれない新たな事業モデルの導入や6次産業化の取組も推進していく。

【具体的な取組】

- ・集落営農組織の法人化支援
- ・持続可能な農畜産業振興策（家畜防疫の強化やスマート農業の導入等）
- ・地元企業への継業・就業支援
- ・地元の素材を使った新たな特産品等の開発（6次産業化やグリーン社会

の実現)

- ・ふるさと納税をはじめとする流通・販路の開拓を推進 等

ウ 先人が引き継いできた地域の宝を磨き上げ、住民協働で取り組む持続可能なまちづくり事業

町民の心の支えであり、また暮らしを支える財産でもある「霧島山」・「水」・「神話」といった貴重な地域の宝を後世に守り伝えながら、官と民、そして住民同士が協働して、安全・安心・快適な生活環境の整備と美しい景観や伝統文化を生かした個性豊かな「神武の里づくり」に取り組む。

【具体的な取組】

- ・未来を担う子どもたちの教育環境の充実
- ・スマートウェルネスシティ（健幸づくり）推進事業
- ・町民の生活交通手段の維持・確保支援
- ・高速情報通信環境整備事業
- ・職場や家庭で実践出来るSDGs活動の啓発
- ・公共施設等再生可能エネルギー導入事業 等

エ みんなでたかはるの魅力を発信し、新たな人の流れをつくる、輝きあふれるまちづくり事業

本町に数多く存在する魅力的な地域資源を最大限に活用しながら、その魅力を町内外に向けて発信することで、まちに新たな人の流れをつくり出し、交流・移住人口の増加や観光誘客の促進など、多くの人々が集う輝きと活力にあふれるまちづくりを目指す。

【具体的な取組】

- ・町の魅力を効果的に発信する「発信力」強化
- ・地域資源を活用した観光振興
- ・移住前から移住後までの切れ目のない受入体制の整備
- ・多様な形でかかわりを持続する「関係人口」の創出・拡大 等

※なお、詳細は第2期神武の里たかはる人口ビジョン・総合戦略のとおり

り。

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

200,000千円（2021年度～2024年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

毎年度9月頃をめぐりに産学官金等の外部有識者で構成する「神武の里たかはる総合戦略策定審議会」において効果検証を実施し、検証結果を公式ホームページ等で公表する。

⑥ 事業実施期間

地域再生計画の認定の日から2025年3月31日まで

6 計画期間

地域再生計画の認定の日から2025年3月31日まで